

スモン調査研究協議会研究報告書

No.2

臨床班研究報告

昭和46年3月

スモン調査研究協議会

スモン調査研究協議会臨床班

班員名簿

(五十音順)

氏名	勤務先	職名	所在地(郵便番号)
伊東 弓多果**	伊東内科医院	院長	釧路市住吉町9 (085)
右京 成夫	京都大学医学部第1内科	助手	京都市左京区聖護院川原町53 (606)
大月 三郎**	岡山大学医学部神経精神医学教室	教授	岡山市鹿田町2-5-1 (700)
大藤 真	岡山大学医学部第3内科	教授	岡山市鹿田町2-5-1 (700)
大村 一郎**	国立呉病院第1内科	医長	広島県呉市青山町1-10 (737)
奥田 観士	岡山大学医学部眼科	教授	岡山市鹿田町2-5-1 (700)
奥村 二吉*	岡山大学医学部神経精神医学教室	教授	岡山市鹿田町2-5-1 (700)
楠井 賢造	和歌山市立城南病院	院長	和歌山市真砂町2-14 (640)
黒岩 義五郎	九州大学医学部脳神経病研究施設神経内科	教授	福岡市堅粕1276 (812)
小坂 淳夫	岡山大学医学部第1内科	教授	岡山市鹿田町2-5-1 (700)
越島 新三郎	国立東京第1病院神経科	医長	東京都新宿区戸山町1 (162)
鹿野 信一	東京大学医学部眼科	教授	東京都文京区本郷7-3-1 (113)
杉山 尚	東北大学医学部温泉医学研究施設鳴子分院内科	教授	宮城県玉造郡鳴子町新屋敷67-1 (989 68)
祖父江 逸郎	名古屋大学医学部第1内科	助教授	名古屋市昭和区鶴舞町65 (466)
高崎 浩	三重県立大学医学部第1内科	教授	三重県津市栄町1-96 (514)
椿 忠雄	新潟大学脳研究所神経内科	教授	新潟市旭町通1 (951)
豊倉 康夫	東京大学医学部脳研究施設神経内科	教授	東京都文京区本郷7-3-1 (113)
早瀬 正二	岐阜大学医学部第2内科	教授	岐阜市司町40 (500)
平木 潔	岡山大学医学部第2内科	教授	岡山市鹿田町2-5-1 (700)
藤原 哲司	京都大学医学部第3内科	助手	京都市左京区聖護院川原町53 (606)
三好 和夫	徳島大学医学部第1内科	教授	徳島市蔵本町3丁目 (770)
森 永寛*	岡山大学温泉研究所温泉医学部門	教授	鳥取県東伯郡三朝町山田827 (682 02)
山本 道夫*	岡山大学医学部放射線科	教授	岡山市鹿田町2-5-1 (700)

* 昭和44年度のみ ** 45年度のみ 其他の17班員は両年度とも

序

昭和45年11月スモン調査研究協議会研究報告書第1集を発刊してから約半カ年、臨床、病原、病理の各班の研究報告書を相次いで刊行するに至ったことは、会の世話役として大変喜ばしいことである。

さて昭和45年度は「スモンの病因と治療に関する特別研究」に対し、厚生科学特別研究費5,000万円が認められ、引続きその研究が調査研究協議会に委託された。

調査研究協議会の研究方針は、原因不明疾患の研究の常道によって **multidisciplinary** の原則に従い、可能な限り、また考え得る限り各方面から、それぞれの専門家の手によって、アプローチを試みたわけである。

従って研究班員の数も、昭和44年度の分に対し、23名が新たに追加され、総計64名となった。

これら研究班員各位の問題解決に対する熱意と努力の結果として、スモンの病因究明に対する多くの有力な手掛りが、昭和45年度の研究から生れてきた。この網にかかった最も大きな魚はキノホルムであるといえよう。とくに調査研究協議会の研究成果に基づいて、昭和45年9月8日キノホルム発売中止の処置が、政府によって行われてからスモン患者の発生が激減をみたことは特筆しなくてはならない。

もとより現時点においてはキノホルムを原因と断定するのは時期尚早ではあるが、スモン発症に対する影響はもはや何人も否定できないと思われる。しかしなおウイルス、マイコプラズマ、腸内細菌などの微生物因子や、農薬の影響などにも考慮を払いつつ研究を推進しなくてはならない。

病因研究の華々しさに対比して、治療研究の成果が少ないのは遺憾であるが、事の性質上、止むを得ない面がある。しかし、少しずつではあるが、地道な努力が治療やレハビリテーションの改善に払われ、成果が現われつつある。

ここに昭和44年9月2日スモン調査研究協議会発足以来、昭和45年度までの臨床、病原、病理研究成果のあゆみを今回の第2、3、4集にまとめ世に送る次第である。

昭和46年3月

スモン調査研究協議会

会 長 甲 野 礼 作

発 刊 に あ た っ て

昭和44年9月、岡山でスモン調査研究協議会が発足した際、年長の故か、わたくしが本会の監事に推挙されてこのかた、幹事会には毎回お招きをうけて列席し、卑見を述べる機会をも与えられている。昭和45年3月19～20日の本会総会で、初年度にあげた各種の業績がまとめて報告・討議され、その成果が各方面から認められるにいたり、昭和45年度もスモン調査研究の続行が本会に委託された。かくて、幹事会では昭和44年度における各班の研究報告書の刊行を議決した。しかるに、諸般の事情もあって、その第1集「疫学班研究報告」がようやく昭和45年11月に発刊されるはこびとなったのである。

臨床班では、昭和45年11月14日の班会議において、豊倉康夫班長から研究報告書刊行の方針のあらましを示し、班員各位の協力を要請した。さらに、本年1月12日の幹事会に於て各班とも早急にその実現に励むべく約束した。会が終わった後で、豊倉班長と平木潔幹事、それにわたくしもまじえて協議の結果、編集に関してはすべてわたくしに一任するとの議がまとまり、身の不敏をも顧みず、お引受けすることとなった。

かくして、短期間での達成を目ざし、1月13日、臨床班員各位に編集企画をお伝えし、それに必要な資料を所定期日までにわたくしの手許にお届けいただくようお願いした。時あたかも第18回日本医学会総会およびその分科会の開催を目前に控え、班員各位どなたも御多忙を極めておられたであろうとお察し申し上げる。

それにもかゝらず、さいわい、その規約がよく守られ、こゝに企画した通りの研究報告書を発刊し得ることは編集にたずさわったものとしてまことに欣快にたえない。これひとえに臨床班員各位の絶大な御協力の賜と存じ、深甚の敬意と万腔の謝意を捧げている。甲野会長ならびに豊倉班長のおすゝめに従い、本研究報告書の発刊にあたって編集の経緯をしたためた次第である。

昭和46年3月

編集者 楠 井 賢 造

目 次

スモン調査研究協議会臨床班員名簿

序 甲 野 礼 作

発刊にあたって 楠 井 賢 造

I 臨床班員の各個研究

- I-1 班 員 伊 東 弓 多 果 …… 3
1. 研究概要 主題・項目 釧路地方におけるスモンの臨床的研究 I. はじめに II. スモン患者の発生状態 III. 前駆する腹部症状について IV. 予後について V. 治療について (CDP コリンの治療経験) VI. キノホルム使用とスモン発生との関係 (K病院の外来調査) VII. キノホルム使用量とスモン重症度との関係について VII. むすび
 2. ~4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録
- I-2 班 員 右 京 成 夫 …… 15
1. 研究概要 主題・項目 ビタミン B_{12} 代謝よりみた SMON の病態生理と B_{12} 治療 I. B_{12} 代謝 II. SMONにおける B_{12} 代謝 III. SMONの B_{12} 治療
 2. ~4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録
- I-3 班 員 大 月 三 郎 ・ 奥 村 二 吉 …… 25
1. 研究概要 主題・項目 SMON 研究の動向 I. SMON 患者の予後 II. キノホルム経口投与によるイヌの慢性中毒実験
 2. ~4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録
- I-4 班 員 大 藤 真 …… 34
1. 研究概要 主題・項目 岡山県湯原町に多発したスモン I. 緒言 II. 調査対象 III. 調査成績 IV. 考按 V. 結論
 2. ~4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録
- I-5 班 員 大 村 一 郎 …… 55
1. 研究概要 主題・項目 SMON の臨床的研究 I. 疫学的事項 II. 腹部の臨床症状 III. 下肢振動覚 IV. 消化管X線造影所見 V. 自律神経性愁訴 VI. SMON 患者の精神身体症状について VII. 病理所見 VIII. 血清免疫グロブリン IX. キノホルムとの関連 X. 結語
 2. ~4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録

- I-6 班 員 奥 田 観 士 …… 62
1. 研究概要 主題・項目 SMON の眼障害について—眼科臨床所見および病理学的検討— I. 緒言 II. 臨床検査成績 III. 眼組織の病理組織学的所見 IV. 考按 V. 結論
 2. ～4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録
- I-7 班 員 楠 井 賢 造 …… 75
1. 研究概要 主要項目 I. SMON 患者の髄液が正常人末梢リンパ球染色体に及ぼす影響について II. SMON に併発した急性腎不全の治療 1 例 III. SMON の早期における Steroid 療法の経験 IV. 長期観察よりみた腹部症状を伴う脳脊髄炎症患者の予後判定にかんする研究
 2. ～4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録
- I-8 班 員 黒 岩 義 五 郎 …… 81
1. 研究概要 主要項目 I. 腹部症状を伴う Myeloneuropathy (SMON) における腓腹神経の微細構造 II. SMON と chiniform との関連について III. 実験的 chiniform 中毒家兎における末梢神経病変に関する研究
 2. ～4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録
- I-9 班 員 小 坂 淳 夫 …… 90
1. 研究概要 主題・項目 SMON の病因に関する臨床的研究 I. 井原・芳井地区における SMON の疫学的研究 II. SMON の臨床的所見 III. SMON 患者脊髄より病原体の検出 IV. キノホルム代謝と SMON 発症との関係 V. まとめ
 2. ～4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録
- I-10 班 員 越 島 新 三 郎 …… 99
1. 研究概要 主要項目 I. 国立病院亜急性非特異性脳脊髄症共同研究班研究報告概要 II. SMON の腹部症状について III. 国立病院 SMON 共同研究班研究報告概要 IV. SMON の異常知覚に対する持続硬膜外注入療法
 2. ～4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録
- I-11 班 員 鹿 野 信 一 ……109
1. 研究概要 主題・項目 犬の有機燐実験と SMON I. はじめに II. 方法 III. 結果 IV. 討論 V. まとめ
 2. ～4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録
- I-12 班 員 杉 山 尚 ……115
1. 研究概要 主要項目 I. 東北地方の疫学と教室症例 II. 東北地方

- におけるスモン診断の信頼性の検討 III. 後遺症状の予後と病態生理
IV. 薬物療法とリハビリテーション V. 病因としてのキノホルム剤
服用状況調査 VI. 東北地方におけるキノホルム使用中止以後のスモン
発症調査 VII. スモンによる重症後遺症の実態
2. ～4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録
- I-13 班 員 祖 父 江 逸 郎 ……126
1. 研究概要 主要項目 I. 疫学的検討 II. 臨床症状の分析 III. 個体
側要因 IV. 診断についての計量的解析 V. 病態についての検索
VI. 再燃と予後についての調査 VII. 治療 VIII. SMON とキノホルム
との関連
2. ～4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録
- I-14 班 員 高 崎 浩 ……136
1. 研究概要 主要項目 I. 三重県下におけるスモンの疫学, 病像および
予後 II. スモン患者のキノホルム剤使用状況調査 III. 三重県下
におけるキノホルム販売量調査 IV. スモン患者における Auerbach 腸
管神経叢の病理組織学的変化 V. スモンの治療, とくに心理指導
2. ～4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録
- I-15 班 員 椿 忠 雄 ……143
1. 研究概要 主要項目 I. SMON に対する ATP ニコチン酸大量点
滴療法 II. SMON の原因としてのキノホルムに関する疫学的研究
III. キノホルム服用者の神経症状について—某病院1年7カ月の臨床
統計的観察— IV. キノホルム中毒ラットの神経系の病理組織所見(予
報)
2. ～4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録
- I-16 班 員 豊 倉 康 夫 ……159
1. 研究概要 主題・項目 SMON の臨床, 神経病理ならびに病因に関
する研究 I. SMON 患者にみられる“緑色物質”に関する研究
II. SMON に関する臨床神経学的研究 III. SMON に関する神経病
理学的研究 IV. SMON の病因に関する研究(キノホルムを中心に)
V. SMON の病因に関する考察と結論
2. ～4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録
- I-17 班 員 早 瀬 正 二 ……173
1. 研究概要 主要項目 I. SMON 治療法の検討 II. SMON 患者に
おける知覚レベルと筋電図学的所見との対比
2. ～4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録

I-18	班 員 平 木 潔	……181
	1. 研究概要 主要項目 I. SMON における免疫学的研究, 特に血清蛋白及び免疫グロブリンの変動について II. SMON 患者の血清および脳脊髄ビタミン B ₁₂ 値について III. SMON 患者末梢白血球より培養樹立したリンパ芽球様株細胞に関する研究 IV. SMON における実験的緑舌に関する研究 V. SMON 患者血清有機塩素剤の測定 VI. SMON 患者におけるキノホルム服用状況	
	2. ~ 4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録	
I-19	班 員 藤 原 哲 司	……190
	1. 研究概要 主題・項目 腹部症状を伴う脳脊髄炎症—京都地区における疫学, 2・3の臨床的問題および服用薬剤について— I. 京都地区における疫学および臨床神経学的概要 II. 視神経炎の合併と再発の問題について III. 神経症状発症に及ぼす使用薬剤の検討	
	2. ~ 4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録	
I-20	班 員 三 好 和 夫	……198
	1. 研究概要 主題・項目 SMON 発症と化学物質 I. 徳島県における SMON の実態 II. SMON 患者の chinofom 剤服用状況調査 III. Chinofom (iodochlorhydroxyquinoline) による実験的糖尿病 IV. SMON 患者にみられる糖尿病ないし過血糖	
	2. ~ 4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録	
I-21	班 員 森 永 寛	……206
	1. 研究概要 主題・項目 SMON の温泉治療成績 I. SMON 患者 21例の温泉治療効果 II. SMON 患者の温泉治療遠隔成績	
	2. ~ 4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録	
I-22	班 員 山 本 道 夫	……209
	1. 研究概要 主題 SMON の消化管 X線像の検討	
	2. ~ 4. 雑誌, 学会, 班会議での報告・発表目録	

II 臨床班員の共同作業

II~1.	ATP ニコチン酸大量点滴療法(椿)の共同検討成績	…… 213
II~2.	スモンの臨床診断指針の設定	…… 218
II~3.	スモンに対する Steroid 療法の検討 其の一 従来の経験から	…… 220
II~4.	スモン患者のキノホルム剤服用状況調査成績	…… 226
II~5.	昭和45年におけるスモン患者の発生状況	…… 269
II~6.	キノホルム障害と見做される臨床症状の究明に関する小委員会報告	…… 271
附.	下痢を伴う脳脊髄炎症の原因および治療の研究班(班長:前川孫二郎)の昭和44年発表原著目録	…… 272